

●東京都町村議会議員講演会（東京都） 浅沼 碧海
令和7年5月7日 15時00分～17時00分

目的：議員の研修

演題 「議員と住民の距離を縮めよう」～なり手不足から主権者教育まで～
講師 拓殖大学政経学部 河村和徳教授

成果

多くの内容の中で、特に私個人に響いた成果を記載する。

講義の中で触れられた「議員報酬と定数」私個人、議員選挙時には公約にて報酬減額を掲げ、定数についても削減の考えであった。講義の内容では報酬を上げることで、なり手不足を解消し、報酬の適正化は議員の質を向上させ、地域社会に貢献する意欲を高めるために重要であるとのこと。定数に関しても、議員が近くにいることで、地域活動・政治に関わりやすく、議員数を減らすことは住民自治・地方民主主義からは逆効果であると説明された。実際、議員になり初任期を務める中で、議員報酬については日々考えさせられる。妻を持ち、36歳という働きざかりの年齢ではあるが、議員の報酬だけでは生活できない現状である。議員活動に熱を入れれば入れるほど、収入が減っていき、議員活動と生活のバランスを常に見ながら生きているのが現状であるので、とても考えさせられる内容であった。

質疑の時間でも、「議員の兼業としての展望」が質問され、条例の緩和や法令での議論が必要であること。議員が職業として認知されるよう制度の整備が求められると回答があった。3年前の議員になる前の視点では、議員活動とは何か。業務実績等で報酬が見合っているかの妥当性は当然注視されることではあるので、若手が議員でどのように生活をしていくか、自分自身が1つのモデルケースでもあると考えているので、可能性を追求していきたい。

私の中で伺いたかった内容の一つ、「議員活動の役割・実行」に関しては、重要なのはソーシャルキャピタル（人間関係）であり、地域の情報の接点として、住民と専門家をつなぐ役割になるべき。議員という立場を活かし、住民のニーズに応じていく役割が求められていると伝えられた。

講義の中で、「地方自治は地域で異なる意見が存在し、ぶつけあうことで合意形成をしいくプロセスの理解をしてもらうこと。寛容な政治の理解や多数決ばかりが民主主義ではなく、落とし所を見つける能力を高める必要がある。」とのお話があり、短い議員生活ではあるが、とても腑に落ちる内容であった。人や個人、社会、立場によ

って考え方や思う正解は違う。話を進めるなかでも双方の顔が浮かび、どっちつかずになる場合が正直多い。それでも双方の話を聞き、落とし所を見出していきたい。

最後に来年10月に八丈町では議会議員の選挙になる。なり手不足の現状の中、今の議会として、一議員として、どんな事を議員候補者へ伝えられるか。未来の議会に向け、実行の1つのプロセスを伝えてくださった講義であった。